

米子市 文化活動館 通信



上淀廃寺跡に咲く白い彼岸花



天上の花とされる彼岸花

初のベトナム料理教室を企画



館長 中村輝彦

猛暑の夏が終わり、間もなく秋本番です。盛夏には、文化活動館で練習を積んだ「米子がいな太鼓」が躍動。花火の打ち上げ時に行われたドローンショーも大いに話題になりました。新しいことに挑戦する米子人らしい試みでした。

さて、文化活動館では今年度に入って、少しずつですが施設利用者が増加傾向にあるように感じています。文化活動

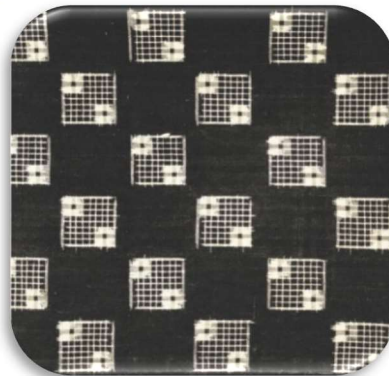
館は、小規模な施設ですが、一部に防音設備が整うなど全体としてリーズナブルに利用できます。今年度の各種講座も順次開講し、多くの方に受講いただいています。10月には、地域の祭りに参加して交流を深めます。今後開催の講座では、人気の韓国料理教室を2回開きます。新しい国際交流員が講師で最初が11月です。来年3月には、2回目の韓国料理教室と初めてのベトナム料理教室を企画しています。

これから、市内各所で様々な文化イベントが開催されます。思い思いの秋を満喫しましょう。

弓浜絨の世界(番外編)

文様⑧

「幾何文」は、格子などの直線、波形などの曲線、三角形などの面、点で構成される文様で、平行移動や反転などを連続して組み合わせています。デザインは、シンプルなものから複雑なものまで工夫を凝らして多彩です。「毘沙門…」は、絵柄の楼閣や「八千代」、「壽」の文字などを巧みに織り出しています。



幾何文(山陰歴史館蔵)



毘沙門亀甲入松皮霞に楼閣と八千代・壽文字文(山陰歴史館蔵)

国史跡「上淀廃寺跡」



木洩れ日
散歩

上淀廃寺跡に咲き乱れる彼岸花に思う 国史跡「上淀廃寺跡」(米子市淀江町)で9月、赤や白の彼岸花が咲き誇っていました。約10年前から、ボランティアの手で植えられた約4万球です。花は例年、彼岸の時期に見頃を迎え、これに合わせてイベント「彼岸花ウィーク」が開催され、にぎわっています。約1300年前の白鳳時代に建立された上淀廃寺は、平成3年の発掘調査で法隆寺(奈良県)の金堂壁画に匹敵する彩色壁画片が出土し、一躍脚光を浴びました。日本の考古学史に新たな一頁を書き加える歴史的な発見でした。今、廃寺跡で色鮮やかに咲き乱れる彼岸花を目にし、出土当時、記者として大発見を報じる取材活動に慌ただしく過ごした日々が懐かしく思い起こされます。その頃、発掘現場で熱心に作業をしていた考古学専攻の男子大学生と出会いました。私は県外への転勤を繰り返し、約30年ぶりに米子で彼と再会しました。彼は良き伴侶に恵まれていました。上淀廃寺跡の発掘がなければ、彼と奥さん、私との出会いはありませんでした。彼岸花を眺めながら、上淀廃寺跡が取り持つ縁をととてもうれしく思いました。彼岸花は、曼殊沙華(まんじゅしゃげ)とも呼ばれます。サンスクリット語で赤い花、法華経で天上の花とされ、仏教にゆかりの花です。かつて愛知県に赴任していた頃、童話『ごんぎつね』で知られる新美南吉の出身地・愛知県半田市を訪れました。そこには、彼岸花が乱れ咲く圧巻の景色が広がっていました。(裏面に続く)

『ごんぎつね』の舞台となった市内を流れる矢勝川の岸辺が、約300万球の彼岸花で埋め尽くされていたのです。この彼岸花は、『ごんぎつね』の一文「ひがん花が赤い布のように咲いている」を再現したとされる風景でした。不吉なイメージが先行することが多い彼岸花ですが、古代寺院跡と童話の地には似合いの花で、ともに良き思い出の地でもありました。(文、写真とも山根)

学べる講座 アラカルト



いざという時の着物着付教室は7月29日から、全12回で行われています。受講生8人が着付の基本を身に付けようと頑張っています。



ベーシックヨガ教室②(昼開催)は8月26日に始まりました。12月までの全12回開かれます。受講生たちはヨガの基本ポーズを熱心に学んでいます。



初めての中国語教室は7月26日、全12回がスタートしました。

募集 韓国料理教室①

- ▼期日 11月30日(土) ▼時間 10:00-14:00(予定)
- ▼場所 米子市文化活動館 料理講習室 ▼定員 16人
- ▼講師 国際交流員 林 慧珠(イム・ヘジュ)先生
- ▼準備 エプロン、三角巾、筆記用具 ▼受講料 500円(別途材料費必要)
- ▼メニュー 「韓国定番料理」をテーマに、海鮮とネギのチヂミ、キムチチヂミ、汁物一品
- ▼募集期間 11月8日(金)9:00から15日(金)17:00まで。(定員超の場合は抽選)
- ▼応募方法 当館窓口、電話のほか、当館HPからも申し込みできます。

休館日 ◆10月=毎週水曜日と14日(月) ◆11月=毎週水曜日と3日(日)、4日(月)、23日(土)

◆12月=年末年始の29日(日)~令和7年1月3日(金)と毎週水曜日

利用時間 開館日の利用は平日と土曜日が9:00~22:00(日曜日は17:00まで) 部屋貸し出しは閉館の15分前まで



あとがき

奈良時代の『万葉集』に、彼岸花を詠んだ和歌が1首だけみられます。島根県西部の石見国府に赴任したことで知られる柿本人麻呂の「道の辺の いちしの花の いちしろく 人皆知りぬ 我(あ)が恋妻は」です。「いちし」は「彼岸花」説が有力です。大意は「道のほとりの彼岸花が目立つように、私の恋しい妻をみんなが知ってしまった」でしょうか。人麻呂の生没年や生地、終焉の地は定まっていないようです。ただ、石見地方に深いゆかりがあるのは確かです。ちなみに、人麻呂の代表作に「石見相聞歌」があげられます。(山根)

米子市文化活動館

〒683-0802 鳥取県米子市東福原8丁目24-31

電話=0859(34)5154 FAX=0859(30)4788 HP=<https://y-bunkak.com>

指定管理者 旭ビル管理株式会社